

# 漁師りょうしと小さな魚

## 漁師りょうしと小さな魚 (イソップの話)

その日、漁師りょうしは、朝からあみを投げつづけていましたが、なかなか魚がとれませんでした。つかれきって、もう帰ろうと思ったとき、ようやく一匹いっぴきの小さな魚がかりました。

すると、魚が言いました。

「漁師りょうしさん、どうかわたしをにがしてください。わたしは、まだこんなに小さいのです。もっと大きくなってから、またつかまえて来てください。そのほうが、ずっと高く売れますよ。」

漁師りょうしは、少し考えてから、首を横にふりました。そして、魚に向かってこう言いました。

「いや、それはできないね。今、手の中にある魚を手放して、いつつかまるかわからない大きな魚をまつのは、おろか者のすることだ。」

そう言って、漁師りょうしは小さな魚をかごに入れ、ゆっくりと家に帰っていきました。たしかでない大きなもうけより、今、たしかに手に入るものを大切にしたいほうがよい、ということ伝える話です。

1 漁師りょうしにかかったのは、どんな魚ですか。

一匹いっぴきの  
魚



2 魚が、にがしてほしかったときの理由は何ですか。

ア 大きくなってからのほうが、高く売れるから。

イ 家族がまっているから。

ウ 漁師りょうしがつかれているから。

3 漁師りょうしは、魚の願いを聞いて、首をどうふりましたか。

首を  
にふった。



4 この話が伝えていることに合うものに、○をつけましょう。

ア 大きなもうけをねらうほうがよい。

イ 今、たしかに手に入るものを大切にすることがよい。

ウ 魚は大きくなってからとるほうがよい。